

厚生労働省科学研究費補助金「医療観察法における退院後支援に資する研究」
分担研究「医療観察法に必要な人材育成に関する研究」の研修動画

認知機能リハビリテーションの紹介

-神経認知への介入-

國田幸治

北海道大学病院附属司法精神医療センター

北海道大学病院リハビリテーション部 作業療法士

認知矯正療法士（CRS）

ようこそ

- この動画にアクセスしていただきありがとうございます。
- この動画では、認知機能障害の中でも、とりわけ注意力や記憶に着目した神経認知というものに介入する認知機能リハビリテーション（認知リハ）をご紹介します。
- 動画のボリュームとして、各治療モデルの細かなお話はできませんが、認知リハの魅力をお伝えし、導入を検討するきっかけにしていただければ幸いです。

認知機能リハビリテーションの 意義

認知機能障害

- 統合失調症を持つ人の約85%に認知機能障害があり、その程度は-1.0~-1.5 SDと報告される

(McCleery, 2014)(Heinrichs, 2004)

- 統合失調症を持つ人の精神症状や気分症状以上に認知機能障害が社会的転機、生活機能、治療介入による技能獲得に最も影響を与え、適切なリハビリテーションにより改善が可能である。

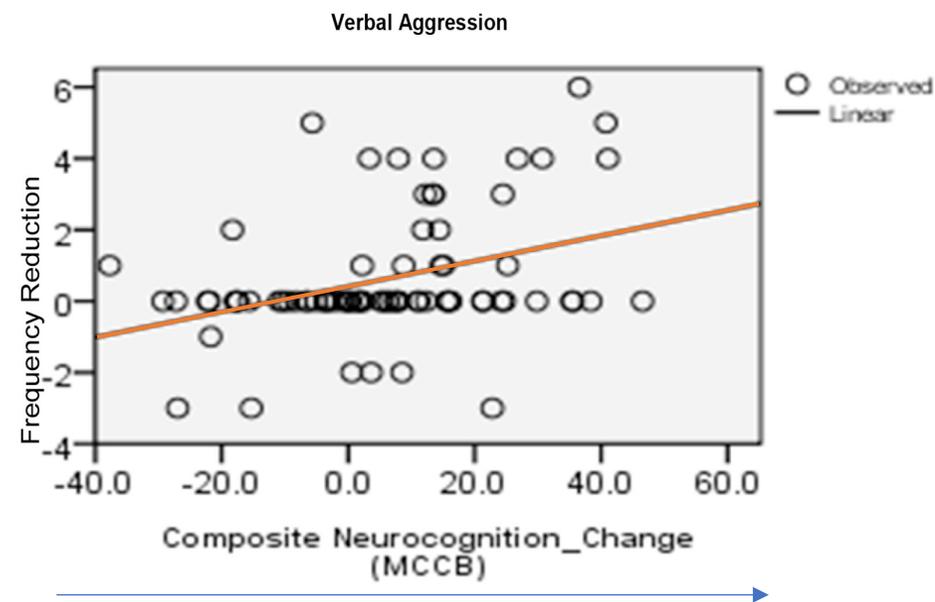
(兼田, 2009)(Green, 2000)(Bowie, 2010)(Wykes, 2011)

統合失調症の暴力と認知機能

統合失調症を持つ人のうち、
暴力歴のある人は、ない人よりも
認知機能が低かった (Reilly et al, 2015)

司法精神医学領域において、統合
失調症をもつ人への認知リハ介入
によって**言語的・身体的な暴力の
発生頻度が減った** (Ahmed et al, 2015)

暴力減少



認知機能改善

対象になる方 取り組むタイミング

対象になる方、こんな方いませんか？

- 何度も説明してるのに、**理解できない**
- **計画が組み立てられず**、洗濯で予定が終わる
- 残金は分かってるのに、**後先考えず散財**
- お部屋が散らかっていて、**片付けられない**
- 働きたいと言うけど、**ミスが多い**
- 前に比べて、**頭が働かない**と言う



認知機能の困り事がある

取り組むタイミング

- 寛解期が望ましい
→ 週2回以上の取り組みが重要
- 動機づけが重視される
→ 開始前から、導入後も継続的に関わる

自己選択感

役立つ感

成功感

興味

ケアの感覚

内発的動機づけMUSICモデル (Jones, 2009)

週2回参加を目指せるか
動機づけが得られるか

認知機能リハビリテーションの 概要

認知リハの種類

- NEAR 認知矯正療法

Neuropsychological Educational Approach to cognitive Remediation

- V C A T - J

Vocational Cognitive Ability Training by Jcores

- FEP 前頭葉・実行機能プログラム

Frontal/Executive Program

- コグトレ

どのモデルを導入するか 検討と調整が必要

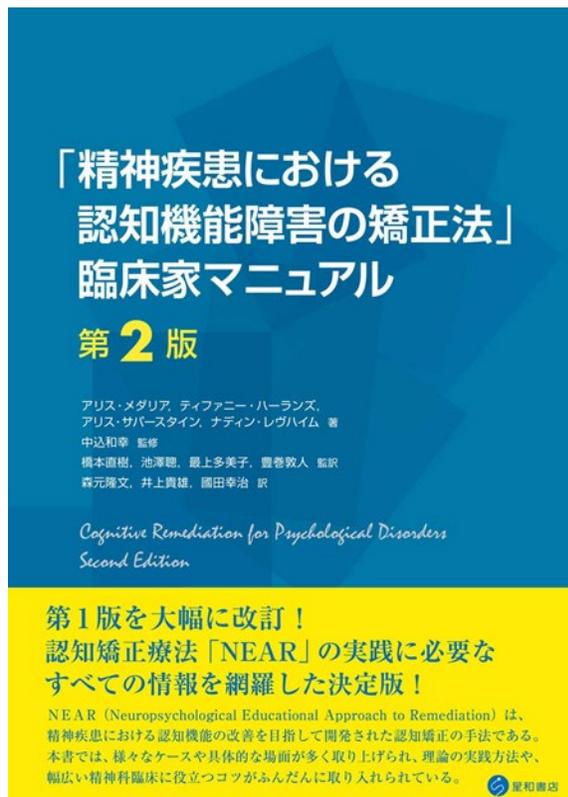
認知リハの各モデル検討(私見)



モデル	メリット	難しさ
NEAR	マニュアルがしっかりしている 動機づけに着目した工夫が豊富 世界的にも報告が多い	セラピストに、柔軟な姿勢やスキルが強く求められる 研修が必要
V C A T - J	準備がシンプルで導入が易しい 就労を意識した課題がある	他の課題ができない 研修が必要
FEP	個別で、最も柔軟性がある 資格や研修が必要ない	面談の規定が初回のみ マンパワーが必要 マニュアルが難解
コグトレ	最も難易度が低く 安価で研修の必要もない	生活を意識しにくい 面談の規定がない

認知矯正療法NEAR

Neuropsychological Educational Approach to Cognitive Remediation



特徴：市販のゲームソフト、内発的動機づけを重視
小グループ

内 容：パソコン課題と話し合い

PCセッション：60-90分 × 週2回

言語セッション：30-60分 × 週1回

期間：4～6か月

寛解期が望ましい（8割参加できる）

認知矯正療法士(CRS)が必要

NEARの取り組み (一例)

PCセッション

- マッチングしたパソコンゲーム
- 取り組み方に着目する介入
- より良い方法を導く (プロンプト)



言語セッション

- 2-8名で日常生活で効率的に認知機能を使う方法を話し合う

OTR2名 + NS5名が担当(当日は内2名) 週2回 4-6カ月

VCAT-J



特徴：パッケージ化、セルフモニタリング、音声課題
小グループ

内 容：パソコン課題と話し合い

PCセッション：45-60分 × 週2回

言語セッション：40-60分 × 週1回

期間：3か月

寛解期が望ましい 就労（社会的転帰）を目指す

VCAT-J研究会主催の研修

FEP



特徴：言語化を促す 神経発達に沿う流れ

個別

内容：紙とペンを中心にしたアナログな認知課題

44回のセッション 1回60分

テキスト一式で4万円で入手

研修は必要ないが、

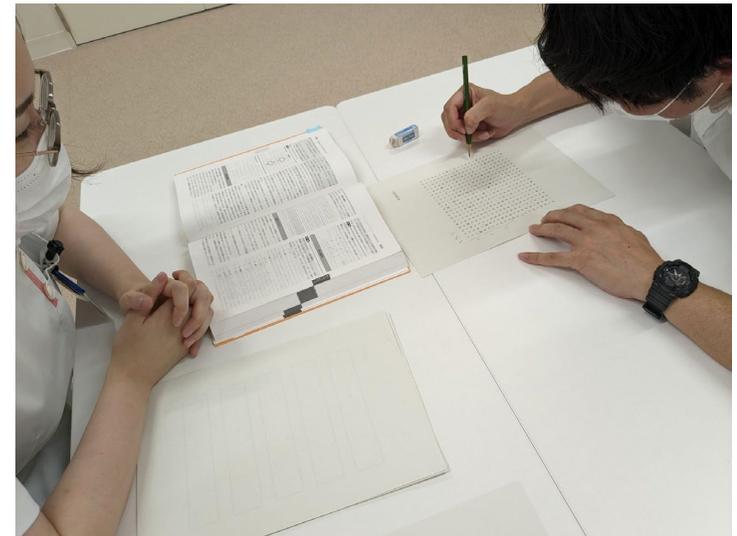
認知機能の理解は必要になる

前頭葉・実行機能プログラム Frontal/Executive Program FEPの取り組み（一例）

認知課題モジュール（60分）

- 神経発達の段階に沿って構造化された認知課題を紙とペンですすめていく
- 対象者に合わせて難易度調整
- 言語化を強調する

1対1の個別 担当OTR 1名 NS1-2名
週2-3回 1回60分 計44回



コグトレ



特徴：やさしい表現と課題 少年院で生まれた
個別～小グループ

内 容：アナログな認知課題

12～18セッション 30～60分 週1回以上

2200円で書店で販売 CD-ROMから課題を印刷
教師や親が使うことも想定されている

SZでは言語セッションを追加した報告がある

導入する認知リハの検討（私見）

- NEAR

東京の研修に行けて
スキルアップに前向きなスタッフがいる

- VCAT-J

研修に行けて、決まった内容を複数のスタッフでできる

- FEP

時間をかけても複雑事例にも個別対応したい。
外部（経験者）とのやりとりができる。

- コグトレ

すぐに導入したい。
生活への般化も工夫して取り組める

修了者のコメント

主観 頭がスッキリします。

昔の感覚を少し取り戻せました。

余暇 趣味の小説がまた読めるようになった。

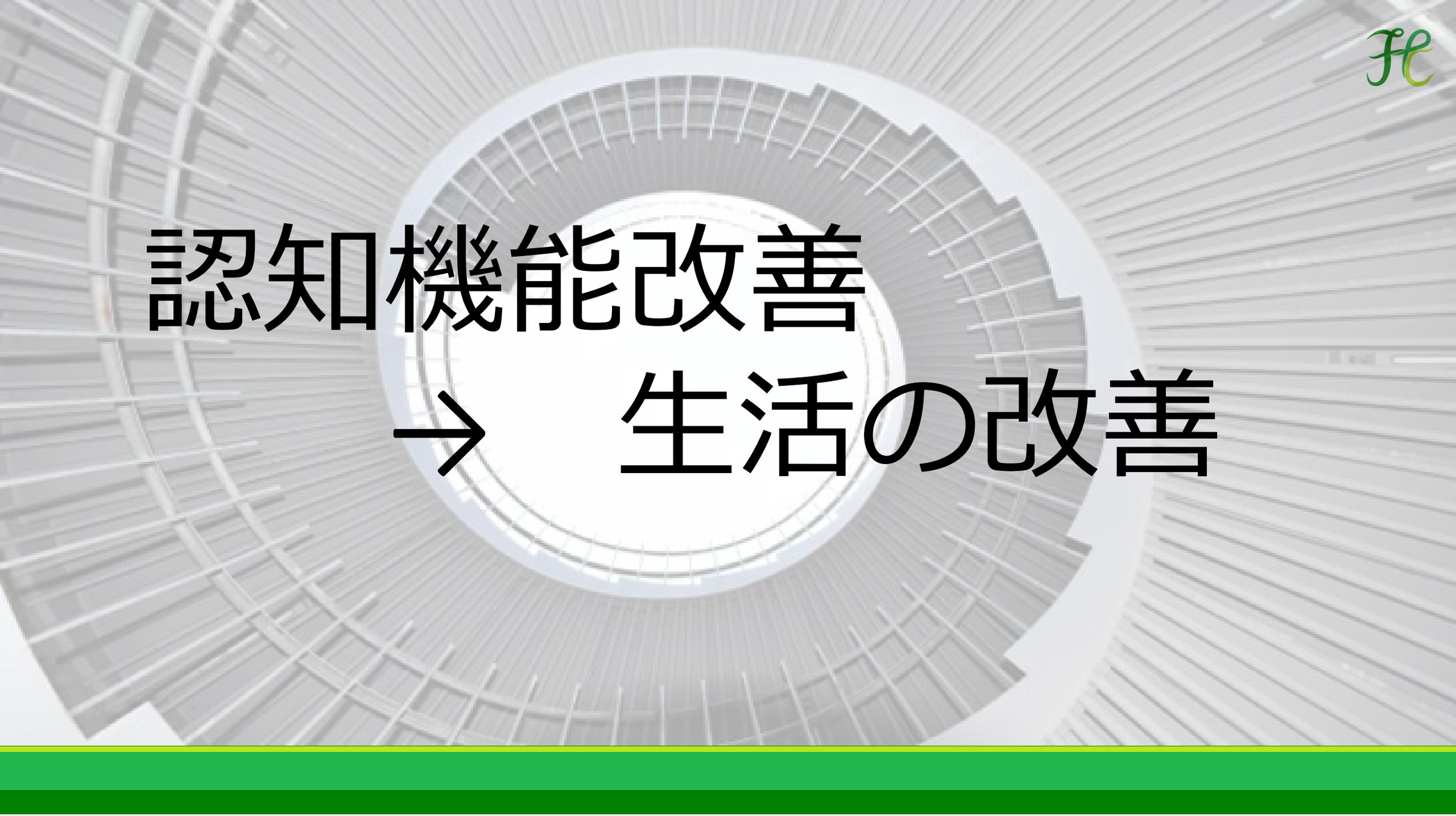
おしゃれが楽しめるようになった。

役割 子供を怒る時、冷静に理由を話せた。

妻から運転が安全になったと言われた。

スタッフのコメント

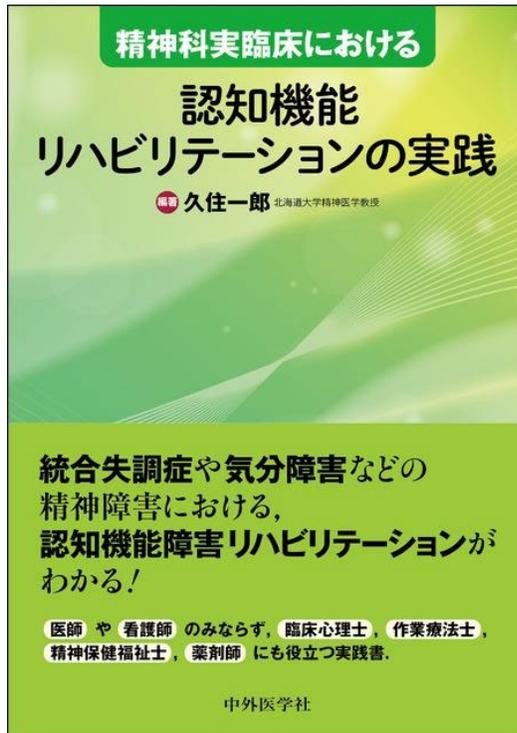
- Dr. 患者さんが回復の主体になることを実感できた
言葉が増えて以前よりも内省がすすんだ
- Ns. 聞いてくれることが増えた。
認知機能を理解すると、関わり方が変わった
- OT 濃密な小集団があると楽し、
住み分けされると大集団もやりやすくなった。
人手がとられてもリハ全体の参加者数は保てた

The background features a large, light gray gear with a grid-like pattern of lines radiating from its center. The gear is centered on the page.

認知機能改善
→ 生活の改善

認知機能リハビリテーションの おすすめ書籍・学習会

おすすめ書籍



- 久住一郎 編著; 精神科実臨床における認知機能リハビリテーションの実践, 2023
- リカバリーをベースにしながら、精神疾患の診断別に認知機能障害の特徴を説明している。
- 認知機能リハビリテーションの概要を幅広く、かつ、具体的な技法や実践例まで示している

モデル	マニュアル・資料入手方法	学会・研究会・ネットワーク
NEAR	精神疾患における認知機能障害の矯正法 臨床家マニュアル 第2版 (星和書店). 研修で使用ソフト一覧と言語セッション資料を得られる。	CEPD研究会 http://minago.sakura.ne.jp/wp/
VCAT- j	研修で専用ソフトのjcoresとマニュアルを得られる	VCAT- j 研究会 http://vcat-j.jp/index/
FEP	前頭葉・実行機能プログラム(FEP)ー認知機能改善のためのトレーニング実践マニュアル・臨床家ガイド付き (新興医学出版社)	FEP lab. http://www.fep-lab.jp/
コグトレ	コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング (三輪書店)	一般社団法人日本COG-TR学会 https://cog-tr.net/

各モデルの学習方法・団体

ご視聴ありがとうございました